

# 九重火山の火山活動について (2003年5月~10月) \*

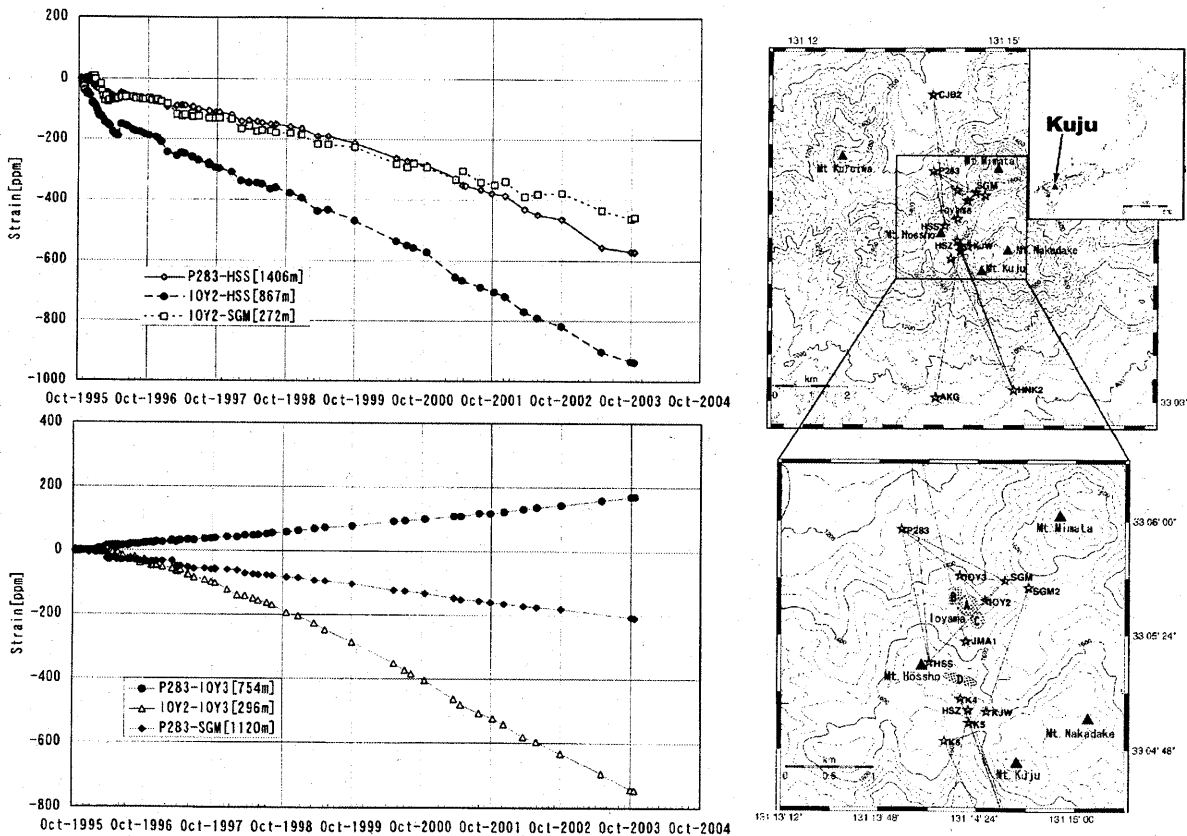
## Recent Volcanic Activity of Kuju Volcano (May~October, 2003)

京都大学大学院理学研究科附属地球熱学研究施設  
火山研究センター  
Aso Volcanological Laboratory, Kyoto University

### 地盤変動

九重火山通称硫黄山の噴火活動が1995年10月に始まって以来、常時水蒸気の噴出がほとんど変化せずに長期間継続していたが、2003年夏頃に、D領域の噴気活動が急速に衰え、現在僅かな噴気が出ている状態となった。

星生山山頂を望む辺長測量結果によれば、1995年10月の最初の爆発から翌年4月までの急激な収縮があった。その後もこの収縮傾向は季節変化があるが依然緩やかであるが、ほぼ直線的に長期間継続している。現在までにすでに約100cm近くの収縮が計測されている。この収縮傾向は、水平の変動と鉛直の変動の二つに合わさった量なので、いろいろな仮定をおいて分けて考えると、旧噴気地域が1年間あたり水平で5cm以上、鉛直で10cm以上収縮したことになる。この傾向が既に7年間も継続し、D領域の噴気活動が急速に衰えた現在も収縮している。極めて希有な現象である(第1図参照)。



第1図 光波測量による斜距離変化  
Fig.1 Changes of Distances at Io-yama Area.

\* Received 20 Feb., 2004